

体育科・保健体育科「球技系・ゴール型・タグラグビー」

タグラグビーの学習の様子

運動・スポーツを見る、行う、支える、知る子どもへ ～球技系①～

期待できる効果

●こんな子どもの姿を期待できます

- ・自チームの仲間と協働し、チームワークを発揮する子ども
- ・相手チームに対して敬意をもつフェアプレー精神を身に付けた子ども
- ・ラグビー特有の面白さを深く味わう子ども

1 単元の導入段階にG Tとタグラグビー

体育科・ゴール型「タグラグビー」(第3・4学年)の学習で、福岡県ラグビー協会の結城先生を講師に招聘しました。まず、単元の動機付けとして、リオオリンピックについて調べさせ、様々な競技に触れた後、新設された競技の中で「7人制ラグビー」と出会わせました。体育で「ラグビーをやりたい」という関心を高め、危険を伴わない「タグラグビー」があることとそのルールについて学習しました。次時は、G Tと共に学習しました。ラグビーの「ノーサイド」「一人はみんなのために、みんなは一人のために」といった精神について教えていただき、味方に取りやすいパスや全員でボール保持者をフォローすること、みんなで得点を喜ぶことなどを体感していきました。この学習を生かして、全9時間の単元を展開しました。勝つ(得点する)ためにはどうすればいいのかといったチームの課題を解決する学習を、「ゲームで試す→チームで話し合い練習→ゲームで試す→振り返る」という流れで繰り返していきました。単元の終末段階では、大会を開いて学習をまとめました。

2 単元の展開段階にG Tとタグラグビー

宗像サニックスブルースのプロ選手を4回お招きして共に学習をしました。原ルールで学習をスタートした後、パスカットなし、待ち伏せをしない等の新しい規則を工夫していく学習を展開しました。みんなが楽しむことのできる規則を考えることで、ルールの妥当性やルールを尊重することの大切さに気付くことができました。技能面はもちろん、スポーツマンシップの精神やラグビーの精神についても専門的な立場から指導いただき、関心・意欲を高めることができました。



ココがポイントです!

- ①福岡のプロラグビーチームやラグビー協会に協力してもらうことができます。
- ②事前事後にG Tと綿密に打合せを行い、担任や教科担任が主となり、G Tとチームを組んで学習を展開します。
- ③G Tからラグビーの精神に触れていただくことは効果的です。



▲単元の導入でG Tとタグラグビーと出会う

▼G Tに相談しながら一緒に規則を工夫していく展開段階



▼単元終末の大会の様子



▲ゲーム→話し合い→ゲーム→振り返りの展開段階



実践後の子どもの感想

- タグラグビーは、ボールにぶつかることがないし、怖くなかった。わたしは運動が苦手だったけど、ボールをつないでみんなで点を取って喜ぶところが好きになりました。試合が終わって、ノーサイドで敵味方なく、みんなでお疲れ様でしたというところも好きです。
- わたしは、ボール運動が苦手で、初めはタグラグビーも嫌だなあと感じていました。でも、初めてトライをすることができました。とても嬉しかったし、タグラグビーが大好きになりました。